



ゆず ゆず わたし こわ なに
譲れないもの、譲ったら私が壊れるものは何か

せんげん台「世一緒」所長 高瀬勇

就労移行「世一緒」の窓から

1年経っても、いまだに価値観の違いが大きすぎてどう折り合ったらいいか、分からないでもがいている。就労支援の経験の差で片付けて欲しくないで、少し思いを書く。

プロフェッショナルに対する考えが違うようなのだ。「私はあなた(利用者)のことをあなた以上に分かっているから、あなたの悪いようにはしないから」というメッセージに違和感がある。このメッセージは「私についてきなさい」というメタメッセージになる。

私は「私の看護はズレているかも知れない」と、当事者に訊ねることを心がけてきた。私が間違っていることを勘定に入れて看護してきた、対人援助に正解はないからだ。

私は『「立場」は違っても関係は「対等」です』と利用者に言う。

私たちが「指導者」や「訓練者」という立場で臨むなら、利用者は断ることも苦情も言えない。こちらから対等な関係を目指さない限り利用者は「嫌」とは言えない。

対等な関係は、利用者を分かるよりも信じることから始まる。何を信じるのかと聞かれれば、いろいろな壁を乗り越えて「世一緒」に来た事。並々ならぬ決意と思いを抱いて、健常者と呼ばれる人たちの3倍はエネルギーを使って、ストレス8眠れなかつたりへとへとになったり)と戦いつつここに通いつけている事だ。

だから、私は「指導者」ではなく、「^{ばんそうしゃ}伴走者」になりたい。



すいごごカフェの持続と社会的共有のための
語る・聴く・暮らし 検証プロジェクト協力会員募集

◇これまで「語ること」を奪われてきた人々の「語り」を中心に、ほかに身近な地域に暮らす人々の「語り」を、一緒に「聴く」場として、すいごごカフェを持続させる。

◇「語り」の記録をその都度SNSやHPで発信し、マスメディアが伝え、編んでゆく社会像からは捨象されてきたさまざまな人々の「暮らし」の社会像を伝え、編んでゆく。

◇日本型格差社会が深まり、さまざまな支援策と表裏一体で個人情報保護が広がり、悩みつつ生きる人間が見えづらい現状に対し、「語る」・「聴く」支援を提案し、具体化してゆく。

◇単年度で約40回の「語り」の記録の総集編を主とした「年誌」を発行し、上記の〈さまざまな人々の暮らし〉の社会像)及びそれを編む過程に欠かせない〈「語る」・「聴く」支援〉の具体化のための資料として発行する。

当会会員以外の方へ!

2019年度「語る・聴く・暮らし 検証プロジェクト協力会員を募集します!

協力会費: 4000円 協力会員になっていただいた方には、2018年度年誌(A4判・50ページ)としらこぼと笛をお送りするほか、職場参加ニュース、世一緒NOW(各年4回程度発行)をその都度お送りします。

会員の方へ: 2000円以上のご協力費に対して年誌と笛をお送りします。

